

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	モナシユ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
(○)1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 ()5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

オーストラリアのビクトリア州メルボルンに位置する大学

留学した動機

英語力向上、学部で履修しなかったが興味のある教科の勉強

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:					
③留学期間等:	2015年		7月~	2016年	6月
	年時に出発				
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	修士1	年生の		11月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		74	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0単位	
	留学後の取得(予定)単位			0単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2011年		4月入学	2017年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:			6年		ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

学部で留学に行ける最後の機会だったため。また留学に必要なIELTSのスコアが取れたのも3年の夏学期だったため

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

申請処理がなかなか進まなかったり、ビザ申請に必要な健康診断の予約がなかなか取れなかったりするので、早めに申請手続きを行った方が良い。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定のものに加入

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

東大のテスト期間と留学開始時期が被ったため、いくつかの授業でテスト時期を早めてもらったりレポート提出に代替してもらったりした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

どんなに英語がうまい人でも時間のある限り日本でしっかり英語を学んでおくべき。海外で生活するだけでは英語は全く上手くならず、向こうで英語を学ぶことは所詮日本で行った英語学習の延長に過ぎない。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本の電源ケーブル(タコ足)、常備薬

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
DESCRIBING AND ANALYSING LANGUAGE AND COMMUNICATION	6		ANDROID AND IOS DEVELOPMENT	6	
INTRODUCTION TO COMPUTER SCIENCE	6				
DATA SCIENCE	6				
ALGORITHMS AND DATA STRUCTURES	6				
ADVANCED PROGRAMMING	6				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

講義の他にチュートリアルという講義の内容を復習する授業がある。また、ラボという授業では毎週または2週間に1回与えられる課題に取り組む。1学期に取れる科目数が最大で4つなので、一つ一つの授業がとても濃く、課題も多く出た

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期最大4科目で1科目につき6単位。1科目がとても重く、課題はたくさん出た。授業の時間数は1科目につき週6時間程度であり多くないが、課題にかかる時間は厳しい授業だと週10時間くらい必要だった。

④学習・研究面でのアドバイス

テスト前にまとめて勉強しようとしても、1科目がとても濃いので、かなり苦労することになる。毎週少しずつ勉強し、課題をこなしていくことが大切

⑤語学面での苦労・アドバイス等

これを聞いて驚くかもしれないが、私は1年間オーストラリアにいても英語がよく理解できると言えるレベルには達しなかった。特に、今でもリスニングはかなり苦労している。向こうで一番強く感じたことは、海外に住んでいても英語は自分で勉強しなきゃ決して上手くならないし、結局それは日本での英語学習の延長に過ぎないのだな、ということであった。なので、留学を考えている人は、向こうで英語を勉強しようとするのではなく、出国前からコツコツと単語を覚えたり、リスニング力を鍛えたりする努力が大切である。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学の寮
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
お金を現地の口座に日本から親に送金してもらった。クレジットカードも必要に応じて使用。クレジットのみで半年または1年海外で過ごすことは難しいので、現地で口座を作りお金を日本から送金することを勧める
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
私は1年間の留学中1度も日本に帰国しないで過ごしたが、正直最後の2ヶ月間はストレス等でかなり息切れ気味であった。そのため、時間のある時にリフレッシュを兼ねて一時帰国をしたほうが、最後まで留学のストレスに負けることなく過ごすことが出来るのかもしれない。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
寮費950オーストラリアドル(以下\$)、食費\$400、交際費\$200
・留学に要した費用総額とその内訳
すべて込で約200万(12ヶ月)。160万くらいが生活費と交際費、20万くらいが旅費、残り20万くらいが保険やその他雑費
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
jassoの海外留学支援制度(協定派遣)奨学金(月7万)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
大学の野球部に入り、週二回野球をしていた。また、日本クラブという日本文化に興味がある学生と日本人が集まるクラブに参加し、そこで多くの友人を作った。また、留学先の教授の1人に何か自分が関われるプロジェクトはないかと相談し、授業とは別にテキストマイニングの研究を少し行うことができた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
モナシユ大学は留学生の数が多いため、とてもしっかりしている。特に大学寮はとても住みやすく、おすすめ
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館も複数あるし、ジムもあり、食事を取る場所もそれなりにある

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
就職を行わないため、不明
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
同上
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
同上
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
海外と比べたときの日本や日本人の特異さ、ユニークさに気づく。またネイティブと我々の英語力の差を強く実感する。そして、留学先では自分の専門と違う科目を学ぶ事ができるので、自分が何をやりたいのかを探る絶好の機会となった。実際、私は大学院で学びたい学問をこの1年で見つけることができた。
②留学後の予定
海外の大学院進学
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
いろいろと感じる事は多いので、是非機会があればなるべく1年間留学してみてください。ただ、海外に行けば英語が勝手に上手くなると思って留学を検討している人は、行かないのが吉でしょう。事実、10年以上現地に滞在していても英語があまり上手くない人はたくさんいます。私はこの留学を通じて、ブレブレだった自分の軸(将来どう生きていくか、何をを目指すか等)が少しだけ定まり、自分自身への理解(自分の得意不得意、向き不向き)も多少深まったように感じます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
留学先の大学のホームページ
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 7 月 27 日

東京大学での所属学部・研究科等:	公共政策学教育部	学年(プログラム開始時):	専門職2
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	モナシュ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/> 1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 ()5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要				
モナシュ大学はオーストラリアのトップ八大学Group of Eightに属する大学であり、Victoria州のClayton, Caulfield, Berwickなどにキャンパスを持つ。メインキャンパスであるClaytonキャンパスはメルボルンより電車とバスで50分ほどの位置にあり、少し都会から離れた郊外という雰囲気がある。				
留学した動機				
修了後、海外大学院の進学を希望しており、その準備・見極めを兼ねて、海外の修士課程を体験してみたかった。				
留学の時期など				
①留学前の本学での修学状況:	2015 年	専門職2	年生の	S2 学期まで履修
②留学中の学籍:	留学			
③留学期間等:	2015 年	8 月~	2016 年	7 月
	専門職2	年時に出発		
④留学後の授業履修:	2015 年	専門職3	年生の	A1 学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年	年生の	月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		36	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			8 単位
	留学後の取得(予定)単位			6 単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014 年	4 月入学	2017 年	3 月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	3 年		ヶ月間	
⑨留学時期を決めた理由:				
公共政策大学院で一通りの授業や研究を行ってから、留学をしたかったので一年次ではなく二年次を選択した。				

留学の準備
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
特に入学手続きをした覚えはなく、留学先大学の担当者の指示に従えば十分であると思う。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
オーストラリアのビザの申請は比較的簡単であるとされており、申請後1週間以内にビザが発行されている場合が多い。しかし、2016年夏よりビザの発行基準に変更があったようなので情報収集をしていた方がいいかもしれない。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
現地と東京大学の健康保険に加入が必須である。オーストラリアの薬・ビタミン剤は種類が豊富であるが、逆の見方をすれば、日本より審査基準が甘い。そのような薬を飲むのが心配な人は、風邪薬程度の薬を持ち込めば特に問題はないと思う。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
Overseas Student Health Cover(OSHC: 外国人留学生健康保険)への加入が義務付けられており、その加入に500ドル程度支払わなければならない。
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
試験・課題の提出を全て終えて渡航したので、特にそのような手続きは必要なかった。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
私の場合は、TOEFLのスコアメイクを通して学習していた程度であった。いくら大学に留学するとはいえ、日常会話をこなさないといけないので、余裕のある学生は事前に日常会話で使われる例文などに触れていた方がスムーズに渡航先の学生に溶け込めると思う。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
英語学習に必要な本(留学先ではなるべく早く英語が話せるようになったほうがいいので、日本語で書かれた本の方がいいと思う。特にオーストラリアやイギリスの場合、その土地のアクセント・イントネーションに慣れておいた方が賢明。)

学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Microeconomics	6	●			
Macroeconomic Theory	6	●			
Mathematical Economic Theory	6				
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)					
<p>印象に残っていることとして、二つあげられる。一つ目が、行動経済学について。東大には行動経済学を専門とされている教授がほとんどいないのに対し、モナシュ大学では世界でトップレベルに入るほど、行動経済学の専門家の方が多く在籍しており、聴講した授業や、Microeconomicsの授業でさえも行動経済学についてある程度深く触れられていた。二つ目が、巨視的な数学の捉え方である。東大では、定義、定理、証明の流れに従い、厳密な数学に触れることができ、理論面での訓練が大いに出来ると思うのだが、モナシュ大学では、より集合・空間といった概念に終始注意を払っていた。実際、基本的な事柄であるとは思うのだが、私は見落としがちであったため、この思考の習慣を身につけられたのは貴重な体験であった。</p>					
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など					
<p>基本的に平日は朝から夜まで自習、講義、教授・講師とのコミュニケーションで埋まってしまい、ランチとディナーを友人ととりコミュニケーションを図っていた。休日は、出来る限り友人たちとキャンパス外に出掛けるようにしていた。</p>					
④学習・研究面でのアドバイス					
<p>学習・研究面では、根本的な部分では場所によって特に差が生じないと思うので、臨機応変に行えば良いと思う。</p>					
⑤語学面での苦労・アドバイス等					
<p>日本で標準的に教えられている英語はアメリカ英語なので、オーストラリア英語を聞き取るのに大変苦労した。同じ言語であってもかなり違う部分が多いので、まずはイギリス英語の教材を利用したり、話してくれるイギリス人やオーストラリア人を事前に見つけておき訓練の方が賢明だと思う。</p>					
生活について					
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)					
<p>私は、前期は学生寮、後期はルームシェアを利用した。家賃は全体的に東京に比べると多少高めである気がする。ルームシェアの場合、家賃は抑えられるが不動産屋と契約を結ばなくてはならず、学生寮の場合、家賃は割高だが、様々なサポートを受けられ、他の学生とのコミュニケーションもとりやすい。</p>					
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)					
<p>気候は日本と異なり、乾燥しており、季節が真逆の時期にある。またメルボルンでは一日の寒暖差が大きい。モナシュ大学Clyatonキャンパス近郊は郊外であり、レストランやスーパーマーケットが少し離れた場所にあり、生活面で便利な位置にあるとは言えない。交通機関はVictoria州の場合、Mykiというプリペイド式のカードで全ての公共交通機関が利用できる。また、オーストラリアではuberが普及しているので、少し高めの料金を支払えば、好きな場所に行くことができる。食事は外食の料金が高めなので、できる限り自炊をするようにしていた。</p>					

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特に心配するようなことはなかった。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
生活費は毎月5万円程度で、教科書は買う必要がなかったため、食費、交通費が主であった。
・留学に要した費用総額とその内訳
生活費が毎月5万円程度、家賃が毎月10万円程度、航空券の支払いが往復で10万円程度であった。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの給付型の奨学金で毎月7万円を頂いていた。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末に、友人たちとキャンパス内の無料で利用できるフットサルコートやビリヤード場で遊ぶこともあった。長期休暇は東海岸を旅行したり、勉強をしていたりした。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
利用可能なサービスは設置してあったように記憶しているが、利用していないためよくわからない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等は整備されているが、図書館・食堂は閉まるのが比較的早く、休日はしまっていることが多かった。大学院生は実質24時間自習室が利用できる。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()

留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
<p>大学での学習面以外では、第一に、多種多様な国籍の人々との交流ができたこと、また、交流のためのツールを利用できるようになったことは貴重であったと思う。オーストラリアでは、偏りはあるにせよ様々な国からの移住者や留学生と交流ができる上、交流を通じて彼らの話す英語に一定の免疫を持つことができた。この経験は、少なくともより多くの人とのコミュニケーションをとる上で、意義のあることだと思う。第二に、留学することの大変さを実感できたことに意義があったと思う。これから先、海外大学院に留学する際に、今回の留学ではできなかったことも含め、きちんと準備することができ、目的となる学習・研究に安心して従事することが出来ると思う。</p>
②留学後の予定
<p>大学院修了後、海外大学院に進学を希望しており、現在準備を進めている段階である。</p>
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
<p>一般的に留学から得られる利益は、どれくらい精力的に活動できるかによって大きくなり得るが、費用も環境の変化も含めて大きくなる傾向があると思う。しかし、交換留学制度を利用すれば、学費は同額で済む上、生活費に利用できる奨学金も利用しやすい。つまり、ある程度適切な計画を立てておけば、失うものよりも得るものの方が大きい可能性が高いので、交換留学制度を利用できるときに、留学を経験しておくということはこれからの生き方を考える上でも賢明な判断であると思う。</p>
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
<p>特に利用しなかった。</p>
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。